

議会議員研修報告書

議員名

村形 昌一

期 間	出張先
令和4年5月12日から 令和4年5月13日まで 計2日間	岩手県北上市、青森県十和田市、 宮城県仙台市
研 修 テ ー マ	
持続可能なゴミ処理のあり方と広域化（先進地視察研修）	
報 告 大 要	
1. 研修日程及び講師	
第1日目 5月12日 13:00～15:00	岩手県北上市 岩手中部広域行政組合
「広域行政組合の概要」 説明: 参事兼事務局長、主事兼事務局次長	
第2日目 5月13日 9:00～11:00	青森県十和田市 県南環境保全センター株式会社
「廃棄物処理を持続可能なエネルギーへ」 説明: 業務本部次長バイオ施設管理課長	
14:00～16:00	宮城県仙台市 仙台市環境局廃棄物事業部
「プラスチック改修リサイクル」 説明: 課長、係長、仙台市議	
2. 研修内容要旨	
<p>岩手中部クリーンセンターは、厚生省告示のごみ処理広域化を受け、平成10年の協議会設立、平成27年本格稼働となった。神奈川県程の面積を広域化するのは政治力が必要であったろう。結果、ごみ処理費を削減し、売電し、屋内運動場で住民還元しているのは立派だ。</p> <p>バイオガスエネルギーとわだは、生ごみ等の廃棄物を発行させ、メタンガスで発電し、残渣を肥料や液肥にして販売、農地還元している。会社は昭和43年浄化槽センターとして設立、以後地域の農業集落排水や清掃業務を行う中で資源循環型社会の構築に至る。</p> <p>仙台市環境局ではプラスチック資源循環促進法の実証事業を令和2年度より実施。モデル地</p>	

区で町内会調整や周知広報し、プラごみの回収を実施。アンケートを行い、不適物の例を挙げ、令和3年度は回収量を増やし、更なる検証を進めた。アンケートでは約8割の方が「分別が分かりやすくなった」と回答、令和5年4月からの全市展開に向け万全の準備を行っていた。

3. 感想、今後の議員活動への活用など

今回は環境衛生の広域化について、北村山の議員仲間と前段では毒沢のゴミ処理場やグリーンピア共立、また県の環境エネルギー部と勉強を重ねた上での視察となった。

当方のゴミ処理施設も更新時期を控え、どのような形が理想なのか模索した。現状は県主導で進まず、政治力にて広域化するしかないと思う。した場合に住民還元も大いにできるように感じた。

SDGsの流れを受け、持続可能なごみ処理のあり方も進んでいる。廃棄物リサイクル事業は地域資源を有効活用して還元するシステムで処理施設棟は22億円。FIT（再生エネ買取制度）の動向にもよるが当地でも十分やっていけそうな気がした。

仙台市は環境により都市ブランドの向上する基本計画を掲げる。プラ回収や削減にも先進的だ。ペットボトルの水平リサイクルでは伊藤園とコラボし、リサイクルを「見える化」している。最後に仙台市議会訪問や、他市議員との懇談にて、とても勉強になりました。